

# 「曇り後晴れ」<sup>のち</sup>

大手の大病院など医療機関は一般に高齢者の全身麻酔を伴う手術を忌避しがちですが、この度は苦痛には耐え得ず、改めて再度の腰痛大手術に挑みました。爾来の心境を託した時々の詠歌です。  
(平成28～29年 西川三郎 詠歌)

妻子らに見守られつゝの吾が生命<sup>いのち</sup>

灯火<sup>ともしび</sup>戻りぬ春日のなかに (春)



病める身を洗いて湯舟に<sup>ひた</sup>浸るとき

来<sup>こ</sup>し方行く末思うこの頃 (夏)

腰痛の癒えし体に秋の風

いざ生きめやも爽やけき<sup>とき</sup>季 (秋)

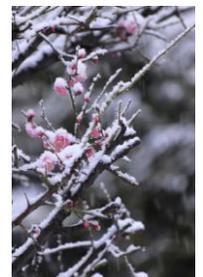


うつせみの吾れにしあれば残る道

多くを学ばて幸を求めん (新春)

寒空に雪を残せる老梅に

わが風雪の来し方<sup>おぼ</sup>びぬ (立春)



(昭28年色染 西川三郎)